



みぢかにある「虫のふしぎ」見つけようー2（命を守る知恵）

お早うございます。やり直しましたが、気持ちのいいあいさつで今週も始まりました。

先週は身近にあるいのち、虫の話をしました。虫も小さいけれどもたったひとつの命。蝶や虫をさがすときには食べた後やウンチの様子で見つけることができるというような話をいくつかしました。

先週の約束で、今日はその第2回目。

先週は蝶の幼虫の話をしたので、今日は蛹の話から、いろいろな秘密をお話します・・・。

さて、一つ目の不思議。アゲハの蛹（サナギ）には色が二種類あります。知っていますか。そうです、緑と茶色の蛹があります。それはどうしてだと思いませんか。

先週、アゲハの幼虫は鳥やそのほかの敵に見つからないように、小さい時はまるで鳥の糞のように黒と白のまだら模様。大きくなると、幼虫は辺りの植物の様子に合わせて緑色に変わるという話をしましたね・・・。また、頭は級初です。傷つけられると死んでしまうので、大きな目の模様を背中あたりにつけて鳥やそのほかの敵を脅したり、だましたりしています。身を守るための工夫です。

では、さなぎの色はどんな理由で変わるのでしょうか。3年生や2年生あたりから「春や夏は辺りの緑の草や葉に合わせて緑色、秋になるときは葉も枯れて秋の茶色・・・。」という声が聞こえてきました。そう、そうですね。やっぱり鳥等の敵に見つかっては食べられてしまうので、目立たないように色を変えているのです。命をつなぎ生き残るための知恵ですね。

二つ目の不思議、蛹（サナギ）が蝶になるときは蛹の殻が透き通ってきます。だから中の蝶の羽の色が透けて見えてきます。あげはとうならきいろとくろのしましま。黒アゲハなら黒。アカタテハなら赤と黄色と茶色。よく見ていると分かります。こうなるとこの子達はあと何時間かで蝶になります。普通、明け方はどんな生き物もまだ寝ていますから、チョウたちは、鳥等の敵に襲われたり食べられたりしないように、明け方に羽化（サナギから蝶になること）します。

三つ目の不思議、蛹から蝶になるときは、必ず蛹のぬけ殻の下に色のついたおしっこ跡があります。どうして、蝶になるときはおしっこをするのでしょうか・・・。

四つ目の不思議。蝶も暑くて大変な時は、よく皆さんが見かけるように水たまりなどに降りて水を飲みます。でものどが渇いているのとはちょっと違うようです。よくよく見ると、水を飲みながらおしっこをして、水を捨ててしまっているのです。口の代わりにストローで飲んですぐさまお尻から捨ててします。どうしてこんなことすると思いませんか・・・。そう、体の中に冷たい水を入れ、体を通して温かくなった水を捨てて、また新しい水を取り入れる。冷たい水を体の中に繰り返し通して体温を下げています。（自動車のラジエーターという機械と同じ仕組みです。）それと同時に、水を飲んで体が重くなると飛べなくなってすぐ様的に襲われてしまうことにもなります。

こうやって虫などの小さな命たち、生き残り子どもを残し、滅びてしまわないためにいろいろな秘密をもっているのです。そのほかにもいろいろな、生きるための知恵がたくさん、すぐ近くに隠れているはずですよ。もっともっとたくさんお話ししたいのですが、今日はとっても厚いので後は自分で見つけてみてください。

皆さんのすぐ近く桃五の校庭でも命の不思議な秘密が見つかるかもしれませんよ。身のまわりを注意深く探してみてください。 お話、終わります。